

田原市議会3月定例会は2月27日に開催され、3会計総額46億1590万円に上る2014年度当初予算案などを上程した。

鈴木克幸市長は予算大綱などを説明し、新年度予算の重点施策として①地域の安心安全の向上②ふるさと人材の育成③地域の活力創出④快適で賑わいのある市街地づくりの4つを掲げた。これを要して3月3日、代表質問が行われた。

■将来を見据えて田原新生会を代表

田原市議会代表質問傍聴記

して眞木正五氏が登壇し、14年度予算案について質問した。合併後10年、交付税算定替えが行われることから税収見通しと財政運営について聞いた。

また、田原市の産業の中心は農業であり、農業大学校や農業専門学校の必要性や「花き振興法案」提出の動きもあり、花き国際園芸博覧会の誘致などについて質問、提案した。

鈴木幸市長は税制改革大綱について、「地方法人市民税の依存度が高い田原市

市にとては歳入歳出予算が、一方的に「見合せ」にならなかったことは遺憾とした。

景気動向による市税収入増のめどが立たることから、積極型予算編成につながり、投資的経費が17・7%となり、東三河5市の中で一番高い予算となつた。

合併による地方交付税の特例措置が14年度から徐々に減少し、7年後には4億円程度となり、30億円の減少が見込まれているが、来年度の交付税算定から合併市町村による見合せになり、一方的に「見合せ」にならなかったことは遺憾とした。

議会力の  
花き生産について  
は「日本一花の生産地から、日本一花を贈る街」に取り組んでおり、「花き振興法案」が今国会で提出される予定であり、期待している。国際園芸博については、国・県と連携して取り組んでいくとした。

専門学校についで市町村が担うには負担が大きすぎる。広域で対応すべきだ。

の向上に切  
した。  
最初に伊良湖岬のカーフェリの廃止発表は観光ロモーションの懸  
材料であり、市長(見解を聞いた。  
また、2025年問題一生産人口減少時代に備える対応について聞いた。  
ついで、広域連絡についてハードルは越えられるのか、その結論はいかがな質問した。  
鈴木市長は答えた。

要望に取り組む」「2025年問題については「地方に  
つては大きな課題」とした。

議会力の向上に切磋琢磨を



三河田原駅も新装され次の十年へ

の事情を踏まえて検討されると聞いており、一定の財政措置がなされると期待している。

農業大学校・農業専門学校については市町村が担うには負担が大きすぎるので、広域で対応すべきだ。

■高邁(こうまい)  
な教育議論  
田原市民クラブを  
代表して彦坂久伸氏  
は市の施政方針に  
いて多角度から質問  
した。

に立ち、カーフェリーの航路廃止は名鉄側から一方的になされたことは遺憾となり、「県・南知多町と連携して存続を要望に取り組む」とした。

「教育改革は百年の人がつくりそのものである。これは米百俵の精神だ」とする彦坂氏の教壇経験に裏打ちされた問題提起をして、田原の教育歴史を大切にし「未

市制10周年を記念して三河田原駅や新給食センターなどの大型事業が完了して、未来を見据えて次の10年に向かう田原市。 ◇

人中17人の最大会員が細かく分裂した。これを契機に議員切磋琢磨(せつさくじくま)し、次の時を切り開くエヌエルゼーに変えていただきたい。

代表質問は10月1日  
豊橋市議会に移り、  
が、ティーズでの中  
継をはじめ、FM豊  
橋でも実況中継され、  
れ、解説させていた  
だきます。